

小田原市教育委員会臨時会会議録

1 日時 令和元年（2019年）7月30日（火）午後7時00分～午後8時55分
場所 小田原市役所 7階 大会議室

2 出席者氏名

- 1 番委員 栢 沼 行 雄（教育長）
- 2 番委員 和 田 重 宏（教育長職務代理人）
- 3 番委員 萩 原 美由紀
- 4 番委員 吉 田 眞 理
- 5 番委員 森 本 浩 司

3 説明員等氏名

教育部副部長	友 部 誠 人
教育総務課長	飯 田 義 一
教育指導課長	石 井 美佐子
教育指導課・教職員担当課長	鈴 木 一 彦
教育指導課指導主事	楠 喜久子

(事務局)

教育総務課副課長	府 川 雅 彦
教育総務課主任	小 林 綾 野

4 協議事項

令和2年度使用教科用図書採択について (教育指導課)

5 議事等の概要

(1) 教育長開会宣言

栢沼教育長…本日の出席者は5人で定足数に達しております。

(2) 会議録署名委員の決定…和田委員、萩原委員に決定

(3) 協議事項 令和2年度使用教科用図書採択について (教育指導課)

教育指導課長…それでは、御説明申し上げます。

今年度は、令和2年度から使用する小学校の教科用図書の採択年度となっております。文部科学省の教科書検定に合格した教科用図書の中から、小田原市の児童に最もふさわしい教科書を、教育委員の皆様には、採択権者として採択していただきます。

7月23日の定例会に引き続き、本日の臨時会においては、採択の前段階として、各種目のうち、検定に合格したものが4社以上ある場合について、種目ごとに御協議いただきます。本日は、書写、理科、保健、英語の4種目について、御協議いただき、候補の教科書を2から3社に絞っていただきます。

協議にあたって、教育委員の皆様には、事前に神奈川県教育委員会が作成した「令和2年度使用小学校教科用図書選定に係る調査研究資料」と、小田原市教

科用図書採択検討部会が作成した「令和2年度使用 小学校教科用図書 調査研究報告」をお送りしておりますが、これらの資料に加え、皆様が独自に調査研究いただいたものを基に、御協議いただくこととなります。

よろしく願いいたします。

(質疑・意見等なし)

栢沼教育長…令和2年度使用教科用図書のうち、まずは、小学校の教科用図書の採択について、協議に入る前に、本日の協議の流れを確認します。まず、本日は、検定に合格したものが4社以上ある種目のうち、書写、理科、保健、英語の4種目について協議をし、候補となる教科書を2社から3社に絞っていきます。各委員からは、事務局から送付されている資料のほか、独自の調査、研究を基に意見を伺います。出尽くしたところで、一人2回から3回の挙手による多数決を行い、過半数のものがあれば、それを候補とします。1回の多数決で2社から3社に決まらない場合は、挙手の回数を減らしたうえで多数決を取り、過半数のものを候補とします。候補が2社から3社になるまで繰り返します。このような方法で進めていきたいと思いますが、いかがでしょうか。

(異議なし)

栢沼教育長…それでは、書写から協議を行います。書写は5社が発行しておりますので、本日の協議で候補を2社から3社に絞ります。まず、委員の皆様から御意見を伺います。順番に和田委員からお願いします。

和田委員…それぞれの出版社で作られたものは、よくできているというのが全体の感想です。その中で、気になる点は、東京書籍では、国語の教科書に掲載されている文章、俳句、物語などを活用しており、国語の教科書との整合性があるのではないかと思います。しかし、まだ教科書は決まっていないので、そういったことを含めて、判断をしたいと思います。まず、光村図書では、1、2年生に「書写体操」というものがあります。QRコードがあり、細かく見ることができます。きちんとした姿勢でやりましようと言われると、大人もそうですが、子供たちも緊張しますので、書写に臨むための体操というものがあるのは、よいと思いました。字を書く姿勢で、「足は ペったん」「せなかは ぴん」「おなかと せなかに ぐう一つ」というようなものがあり、これもQRコードで見ることができます。鉛筆の持ち方でも、「えんぴつ つまんで」「もちあげて」「すうっと たおして なかゆび まくら」「きちんと じょうずに もてたかな」というような、言葉遊びのように動作ができるということが面白いと思いました。また、1教材1目標ということが明確に示されています。最後に「振り返ろう」というところで、問いかけに対して、できたかどうかを、顔を

なぞって回答するようになっており、子供たちは、動作を伴った学びというものがよいのではないかと思いました。「できているかな」では、「横書きのノートでも文字の配列に気をつけて書いているかな」というクエスチョンがあり、これを友達同士で確かめるようになっていて、対話を呼びかけるようなところもよかったです。1、2年生の巻末には、水書シートというものがあり、3年生になると毛筆がありますので、柔らかい筆先で書く練習をしておくことはよいと思いました。また、6年生の最後に、書写ブックというものがあり、6年間の学びのまとめがされていました。教育出版では、こちらにも水書用紙がありました。また、良い姿勢の合言葉「腰びん」「足ぺた」「ぐう一つ」や、鉛筆の持ち方の合言葉では、「ぱちぱち、ころころ」とあり、光村図書と同じように、言葉で動作が表されているのもよかったです。各ページに「振り返ろう」とあり、学んだことの確認ができるようになってるのがよかったです。全学年に手紙やはがきの書き方を載せている点も、それぞれの発達に応じて行われているのもよかったです。学校図書では、キャラクターが言葉掛けをしており、それが学習のヒントや狙いになっています。文字以上の毛筆教材はすべて半紙と同じという点もよいと思いました。点画の書き方の特徴について、擬態語を使って表現している点と、1年生の文字を書く姿勢で、書写体操がこちらにもある点がよかったです。書写については、それぞれの出版社の比較が難しかったということが感想です。

吉田委員…和田委員と同じで、どれもよく、なかなか選ぶのが難しいと思いました。2社に絞りました。まず、東京書籍が分かりやすく、よいと思いました。学習の狙いが明確化されていて、学びやすさがあり、また、文字を分解して色分けしているのも、理解しやすい工夫であると思いました。書き方について、どの出版社も工夫されていますが、「とん」「すう」「びたっ」と、分かりやすい言葉で書き方を示していました。好みの問題になってしまうかもしれませんが、分かりやすい、見やすい、学びやすいと思いました。次に、光村図書では、文字を整えて書くということについては、とても分かりやすいしり方をしていました。形が取りにくいような部分を組み立てて書く漢字についても、網掛けのように分けて、位置を形取れるように書き、組み立て方で、字を正しく、美しく書けるようにというようになっていて、どの出版社も工夫されていますが、分かりやすさが視覚で見えるということがありました。確かめようシールもよい工夫だと思いましたし、和田委員からもありましたが、書写ブックで学びがまとまることもよいと思いました。1教材1目標ということで、学びの目標が分かりやすいことや、他教科とのつながりも、各社とも扱ってはいますが、分かりやすくなっていると感じました。

森本委員…他の委員からも指摘があるように、どの出版社も、子供たちが書くことを楽しめるような工夫を随所にしてあり、選ぶのに苦慮しました。光村図書では、低学年から書写を学びやすいように、書くときの姿勢や、道具の持ち方、書写体

操、水書シートの活用などを取り入れるなど、工夫されていました。全体的に見て、大切なことが一目で分かるような、すっきりした紙面構成になっていて、子供たちにも分かりやすいのではないかと思います。教育出版では、適切に書く力をつけることが全ての学力の基礎であるということをコンセプトに、楽しみながら力を高める活動が随所に認められました。作業療法の視点から、楽しみながら、姿勢や鉛筆の持ち方を習得できるように工夫してあるのが印象的でした。書き方のコツ、伝え合う楽しさを知るということで、小学生の学校生活や日常生活における各場面を教材化し、子供たちに、書くことに主体的に意欲を持たせるように工夫していると思いました。学校図書では、子供たちに、自ら文字を書いて学び、喜びを持たせるということを主体にしています。書写の技能の習得について、学習の進め方を分かりやすくしており、学習のまとめ方、原寸大の教材、書き込み欄の充実によって、子供たちに書いて学ぶ姿勢を定着させるように工夫していると思いました。

萩原委員…どの出版社も素晴らしく、甲乙付けがたいですが、3社選びました。まず、日本文教出版です。学習の過程を3つに分けていて、考える、確かめる、生かすと段階を追って学習ができる工夫がされていました。また、各単元に「できたかな」と問いかけをして、振り返るポイントが肯定的な言葉で書かれており、自己評価ができるようにしてありました。水書シートについては、他社よりも大きくて、使いやすいと思いました。文字の太さが、少し太めに書かれていて、見やすいと思いました。次に東京書籍です。「書写の鍵」ということで、学習の狙いやヒントを示しているのが、参考になります。教科書サイズが大きめで、机の上でお手本を開いて写し書きの作業などをする際に、少し大きいと感じました。毛筆の書き方を「とん」「すう」「びたっ」と表現していて、筆の先がどちらを向いているか、また、圧力がどこにかかっているかを、色を変えてイラストで表記しているところが、子供たちが想像しやすいと思いました。日常使われる横書きの手本もたくさん用意されていて、実用的であると思いました。また、学年ごとに、「文字の泉」というページがあり、日本の文字の歴史、俳句、百人一首、枕草子などの古典作品などをなぞり書きできるようになっていて、社会や国語などとの関連も見られ、工夫されていると思いました。

栢沼教育長…全体的に、各社とも多様な仕掛けが施してあり、楽しく文字を書けるよう工夫されていると感じました。1、2年生に点画の書き方が加わったということから、各社が1年生で水書を使う学習に触れていました。4社については練習用の水書用紙があって、新たに入った点画については力を入れていると感じました。まず、学校図書では、学習のまとめ方について、試し書きをして、練習をして、まとめ書きをして振り返るという一連の流れが視覚化されていることが分かりやすいと思いました。また、短歌を取り上げた箇所、競技かるたの世界を描いた「ちはやふる」の絵を掲載していることも、大変興味深い掲載の仕方であると思いました。東京書籍については、硬筆、毛筆ともに、簡明な筆づ

かいで、点画の書き方の特徴を、キャラクターの動きと擬態語を使って表現しており、子供に分かりやすい教科書であると感じました。教育出版については、書くことで日本語の美しさを体感できる、心が豊かになるような教材語句、文章を選定されており、児童が理解しやすい工夫がされているように感じました。日本文教出版については、ページを折ることで、自分の文字と比較でき、課題を見つけやすい工夫がされていて、苦手な児童にとっては、こういった分かりやすい仕掛けはよいと思いました。姿勢や持ち方の写真が非常に大きく、ポイントが示されていて、分かりやすい工夫がされていると思います。光村図書については、筆で書いてみようということで、筆の特性を紹介しています。3年生から始まる毛筆の学習への期待を高めるのに有効な作りがされていると思います。全体的には、書く楽しさや達成感が感じられる、書く力が無理なく身に付く、学んだことが日常化できるといったことを狙いとして編集された教科書であるということが随所に見られると思いました。

(その他意見等なし)

栢沼教育長…それでは、書写について皆さんからの御意見を伺いましたので、1回目は候補となる教科書をお一人2社選び、挙手をしていただきます。

(1社ずつ、挙手による多数決)

栢沼教育長…ただ今の結果、「光村図書」の1社が過半数となりましたので、こちらを候補とします。残り4社で2回目の多数決をとりますが、お一人2回の挙手をお願いします。

(1社ずつ、挙手による多数決)

栢沼教育長…書写については、「光村図書」「学校図書」「教育出版」の3社を候補として決定します。

栢沼教育長…次に、理科の協議を行います。理科は、6社が発行しておりますので、本日の協議で候補を2社から3社に絞ります。委員の皆様から御意見を伺います。

萩原委員…どの出版社も、サイズが大きめで、情報量、質ともに申し分ないと思います。写真が大きいので、子供たちが興味を持つだろうと感じましたが、その中で3社選びました。まず、啓林館ですが、小田原市、箱根町にちなんだ写真が載っています。小田原市の地層が紹介されていたり、火山の恵によって箱根町の温泉があること、火山活動によりできた芦ノ湖、県立生命の星地球博物館などが紹介されており、身近に感じてもらえる教科書であると思います。問題をつか

もうというところでは、児童同士の話し合いから問題を見つけられるように工夫されていると思います。各単元にQRコードが設置されており、深い学びへの興味が持てるのではないかと思います。次に、東京書籍です。この教科書はA4版の大きいサイズで、情報量も多い印象があります。巻頭で理科の学び方を図解してあり、様々な考えを持つことを提案しています。学んだことを生かすこと、発展的な考え方のヒントなど、習熟度によって学べるように工夫されていました。3年生の巻頭では1、2年生の生活科で学んだことを生かして植物や生き物の観察、植物を育てていくこと、動物を飼育するなど、発達段階に即した活動を紹介しており、興味や関心を高めたり、疑問を引き出すような工夫がありました。「地球に生きる人」という6年生の単元の「学びを生かして深めよう」という教材では、SDGsの話題を採用しています。2030年までに自分が行える、持続可能な開発目標を17の中から1つ選んでみるといった考察する提案がされており、国連が定めたSDGsを身近な話題にリンクさせている素晴らしい題材だと思いました。次に、大日本図書です。小田原市、箱根町の情報が掲載されており、児童にとって身近な情報で、興味を持ってくれると思います。また、「りかのたまてばこ」や、「サイエンスワールド」といった読み物もとても豊富で、中学校での学びにもつながる素晴らしい内容でした。理科のノートの書き方も詳しく紹介されており、予想、考察、結論など、分かりやすくまとめられていました。

森本委員…3社に注目しました。まず、大日本図書です。子供たちが楽しむことを大切に編集されていました。自然と楽しむ、観察や実験を楽しむ、考察を楽しむといった、理科の学習の基本、自然災害や環境保全、生命の存在といった視点を大切にして、子供たちの学び、意欲を駆り立てているように感じました。5年生の「人の誕生」という単元では、胎児の超音波写真を、最新の3Dの写真で掲載しており、子供たちに分かりやすく説明されていました。胎児の実際の体重をペットボトルという身近なものを使って実感できるように工夫されていました。全体的に、実験や観察の図や写真が大きくて、子供たちにはインパクトがあり、分かりやすいのではないかと思います。教育出版では、イラストで主人公の子供たちが学習に目的を持つ姿を表現して、手本を示したり、観察、実験などの結果を交流する場面を設定して、学年全体で学びあうといった環境づくりを示していると思いました。子供が仮説を立てる過程において、教員が子供に問いかける場面を設定して、育てたい思考力、判断力、表現力を、具体的に表現していました。イラストをうまく使われていると感じました。また、啓林館では子供たちが理科を好きになるために、「なぜだろう」、「これをやってみたい」ということを大切にされていました。各単元で、「自然の不思議をとき明かそう」という項目を設けて、見つける、調べる、振り返るということで、問題解決の全体の流れを把握し、主体的に学習を進めるよう工夫されていました。まとめノートや確かめようという項目を設けて、学習内容が確実

に定着するよう工夫されているのがよいと思いました。子供たちがわくわくした気持ちで学びに向かえるように、写真やイラストを大きく見やすく掲載していました。各学年の巻末に、「理科の考え方をはたらかせよう」という教材があり、理科の考え方について科学者が具体的に例を挙げながら分かりやすく説明しているのがよいと思いました。

吉田委員…3社選びました。まず、啓林館です。野外の観察や飼育について、時期を考慮して配置されていたり、最新の資料が掲載されていました。写真が見やすいのは他社もそうかもしれませんが、写真や文字が見やすいと感じました。特によいと思った点は、「結果」、「結果から考えよう」、「まとめ」とあり、結果、考察、結論というような考え方で、小学生ですが、これが科学的思考につながるように、分かりやすくまとめてありました。1つのまとまりのものを、積み重ねていって、分析をして、結果を導き出し、そこから論を導いていくということは、将来、大学などに進学した際に、論文構成につながるような教え方であると思いますので、とても将来につながるような理科の考え方、理科だけでなく、研究というところにシフトできるような教え方になっていると思いました。次に、大日本図書です。理科の学び方を分かりやすく説明していて、課題発見から計画立てて記録をしていくということを丁寧に扱っていると思いました。理科ノートの書き方というところが、子供たちの勉強にもなりますし、教員にとっても指導しやすいのではないかと思います。理科といっても、社会の中の1つの分野として、環境や生命、伝統文化といったところにつなげて教えているということも素晴らしいと思いました。次に、東京書籍です。萩原委員からもありましたが、SDGsに触れているところや、理科で学んだことを具体的な活動として、興味、関心を深めていく、また、それを広めていくような投げかけができています。理科として、1つの見方や考え方を子供に伝えていくということで、何かを覚えるということではなくて、感じたり、体験したり、考えたりする流れが教科書の中から感じられたことは、とても素晴らしいと感じました。

和田委員…問題解決のプロセスについては、どの出版社も書かれていてよいと思いました。はじめに、大日本図書ですが、理科ノートの書き方というのが、他の出版社よりも丁寧に指導している点は評価したいと思いました。科学を志す場合に、データがないとどうにもならないので、記録はとても大切で、ここに注意、関心を示しているということでは、このノートの書き方は優れていると思います。「理科の玉手箱」が随所にあって、学習した内容に関連した情報を示して、理科に対する興味、関心を深めるということについては、この資料はとてもよいと思いました。さらに、「サイエンスワールド」で、中学校で学ぶ内容を示しています。これもよい点であると思います。また、6年生では、プログラミングの体験をしてみるということが、5ページにわたって紹介されています。プログラミングは、これからの時代に必要で、その導入として、その仕

組みを学習しておくことは大切であると思います。他社ではない点として、コンピューターで調べるということは、他社にもありますが、ウイルスの問題にも言及しています。ウイルスの問題は、重要であると思いますので、子供のうちから指摘しておくことが大事であると感じました。また、他社にない点として、図書館の本で調べてみようということがあり、週に1回以上は図書館に行くようにしている点はよかったと思います。図書館は図書館司書により充実しているため、生かしたほうがよいと思い、足を運ぶように、具体的に呼びかけているのがよいと思いました。学校図書では、学年スタートのページに、「科学の芽を育てよう」というものがあります。「理科の学び方」ということは、様々なところで使われる言葉ですが、「科学の芽を育てよう」という視点はよいと思いました。その中で、意識したいことを学年ごとに示しています。例えば、3年生では、調べるときの考え方として、比べるということを大事にする、4年生では、関係付けるということ、5年生では、条件を揃える、6年生では、色々な方向から考えるということ、具体的に言葉で示しているということは、取り組みやすいし、こういうことが必要であると思います。また、科学者の伝記を読む項目もあり、その人の人間性を学べるような配慮もされていて、よい企画であると思いました。さらに、資料のページでは、そこで働く人たちの様子を示しています。勉強して、将来はどういった職業に就いたらよいかということを考えるうえで、実際に働いている人たちの姿が映っているということは、勉強する人にとっては、とても大事なことだと思います。啓林館では、「不思議」ということに重点を置いて展開されているのが、面白いと思いました。特に、段取りを取りながら、問題解決パターンを繰り返しています。科学的な姿勢を育てるということは、簡潔であり、繰り返すということであると思いますので、よいと思いました。

栢沼教育長…教育出版では、観察カードやノートの記録例を豊富に用意しており、深い学びにつなげられると思います。条件整理をするときのポイントとなる事象を写真で示している点が分かりやすいと思います。東京書籍については、他社も取り上げていますが、新たに始まるプログラミング教育について、内容を見ると、電気の性質を学ぶ場面で、人の動きを感じるセンサーを使って、部屋の電気を付けたり消したりする例を通じて、センサーが人を感知する距離や時間などの条件をどのようにプログラミングすればよいかということ学ばせようとしています。子供たちにも教育について興味を持たせる取り上げ方ではないかと思いました。学校図書については、全体的に手順が分かりやすい図を示しています。また、自分で探しやすいという工夫もあります。特に、苦手な子や、学習が遅れた子に対しては、分かりやすく作られていると思います。大日本図書については、問題解決の流れを明確にしています。学習のスピードを確認しながら学べるように、子供たちの発達段階に即した配慮がされた教科書であると思います。啓林館については、季節的な不具合が生じないように、野外観察や飼

育栽培に適した時期を考慮しており、児童にとっては分かりやすいと思います。また、文字や写真が大きく、きれいで、見やすいと思います。6年生では熊本地震の写真もあり、最新の資料が掲載されています。全体的に、「問題をつかもう」ということがあり、子供同士の話し合いから問題を見つけるようにしており、対話的な学びにつなげている教科書であると思います。

(その他意見等なし)

栢沼教育長…それでは、理科について皆さんからの御意見を伺いましたので、1回目は候補となる教科書をお一人3社選び、挙手をしていただきます。

(1社ずつ、挙手による多数決)

栢沼教育長…理科については、「大日本図書」「啓林館」の2社を候補として決定します。

栢沼教育長…次に、保健の協議を行います。保健は、5社が発行しておりますので、本日の協議で候補を2社から3社に絞ります。委員の皆様から御意見を伺います。

和田委員…大日本図書の教科書のはじめに、「健康は夢をかなえる力になる」と表記して、その説明があります。なぜ保健を勉強するのかといったときに、確信をつけている言葉が、教科書を開いた最初のページに載っているというのは、インパクトがあると思います。他社を見てみると、解説的なことが多かったのですが、ここに力を感じました。単元のまとめに、十分分かったら二重丸、だいたい分かったら丸、もう少し頑張りたいは三角というように、学んだことを振り返り、簡潔にできるところがよいと思いました。また、睡眠不足のときはどのような気持ちになるかという設問があり、その回答を書かせるようになっています。丸をつけるといった単純なものから、書くという、体験的な活動を促すようになっているのが、よいと思いました。ページの下段に「ミニ知識」とあり、習った内容に関連する発展的なことが表記されているのもよいと思いました。他社にもありましたが、ここでは、資料として熱中症やAEDについてなど、健康に役立つ情報がありました。次に、光文書院では、4コママンガと6コママンガがあり、親しみやすくよいと思いました。学校の授業でありながら、こういったものがあると、子供の気持ちが楽になるというか、よいことであると重いました。また、トップアスリートが紹介され、それぞれが「私と健康」というメッセージを寄せています。身体勝負の人たちなので、健康に最も関心を持って取り組んでいる人たちの生の声が紹介されているのがよいと感じました。現代的な課題である、痩せる願望やLGBT、またガンなどの病気からの回復などについても取り上げられており、よいと思います。痩身願望とい

うのは、思春期の子供たちと関わっていると、大変な問題であると思います。出産のときに大変になったりという現実を見ると、この年代でしっかり取り上げておくことは大事であると思います。5、6年生には、様々なデータがあり、例えば、受動喫煙と肺がんとの関係や飲酒を始めた年齢とアルコール依存症との関係、日本全国のインフルエンザで欠席した子供たちのデータなど、色々なデータが教科書に載っているのはよいと思いました。文教社では、単元の終わりに「わたしのスッキリせん言」や「わたしの安全せん言」といったものがあり、面白かったです。学び終わった後に、「私はこうしたい」ということを明確にして、生活や学習に向き合えるようになっていました。また、大切な文章は網掛けになっていて、キーワードは太文字になっているのもよいと思います。データが棒グラフや円グラフなどになっていますが、グラフが大きくて見やすかったと思いました。

吉田委員…どの教科書も運動との関係をしっかり扱っていたり、養護教諭や栄養教諭など、様々な学校に関する医療分野の方や学校内外の方たちの紹介があったり、中学につなげるといった視点もあり、インクルーシブな視点も色々なかたちで取り入れられていました。学習内容をもっと深めたり、もっと知っていったり、つなげて広げるということも、しっかり扱われていて、選びづらいと思いながら、選びました。まず、学研教育みらいです。学校や家庭で取り組めるというような、保健を生活の中で生かすということは、子供たちにとってもピンとくるのではないかと思います。運動領域との関連は分かりやすい記述になっていたと思います。また、光文書院ですが、和田委員からもあったように、現代的な課題の内容が充実しており、保健の学びを社会的な課題につなげて、自分にも投影して考えることができると思いました。マンガを使っているということも、子供たちに興味を持たせるよい工夫であると思いました。東京書籍では、資料がとても多く、色々学べるテキストになっています。知識を広げるということについても、情報入手先を紹介していて、子供の自主的な活動が発展するきっかけを与えようと思いました。

森本委員…各出版社に共通して、子供たちがこれからの社会の変化に対応して、未来をつくる支えになるのは、心身の健康であり、自分の生活を健康に、安全にするために、必要なことを学べる内容になっていると思いました。印象に残ったものが3社あります。まず、東京書籍です。学習の進め方が4つのステップになっており、こういった学習の進め方が、児童の思考を促し、児童が主体的、対話的で深い学びができるよう、分かりやすく構成されていると感じました。また、学習内容に関連した詳しい資料を掲載しており、今日的な健康課題に対応した内容を豊富に取り上げられているのが、よいと思いました。全体としては、他の出版社に比べると、とても詳しく情報が書かれていて、情報量としては多く、子供たちがこの情報量を把握できるのかという感じもしました。次に、光文書院です。先ほども発言がありましたが、各巻の最初に、児童が保健

を学ぶことの大切さに気づく6コママンガや、単元ごとの導入ページに児童の生活との関連があり、共感できる内容の4コママンガが示されており、子供たちが勉強にスムーズに入りやすい工夫がされていると思いました。保健を学ぶことの大切さをイラストや会話で分かりやすく伝えてあり、学習へ向けての、子供たちの好奇心や探究心を刺激し、学習内容を身近に感じられるよう工夫されていました。学習の進め方が5つのステップになっており、取組を具体化しているのがよいと思いました。次に、学研教育みらいです。編集の基本方針が、「健康とはどんなことか」、「健康とどう関係しているか」、「健康になるにはどうしたらよいか」を考え、実践に結びつける構成になっているのがよいと思いました。学習の進め方が、「掴む」、「考える」、「調べる」という3つのステップになっており、子供たちが見通しを持って学習に取り組めるように工夫されていて、全国各地の実例の写真も豊富に掲載しており、子供たちの興味、関心が高まるように工夫されていると感じました。健康への喫煙の害や、がんについての写真や図が、一番分かりやすく掲載されていて、子供たちも分かりやすいのではないかと感じました。

萩原委員…3社推薦いたします。まず、学研教育みらいです。レイアウトがシンプルで見やすく、色目が控えめで、ユニバーサルなデザインを配慮していると感じました。また、インクルーシブの教育の視点も持っており、多様性のある人物が描かれていたり、自分の生活に置き換えられるような挿絵が豊富でした。タイトルに、ここで学ぶことが示されており、何を学ぶ単元なのか分かるようにしているのがよいと思いました。また、思春期の児童への配慮もされていると感じました。次に、光文書院です。学習の進め方が5つのステップになっていて、主体的に課題の解決を学習できるように工夫されていると思います。また、現代的な課題について、例えば痩身願望やLGBT、インターネットの取り扱いについてなどを取り上げており、様々な気づきにつながるような内容が充実していると思いました。単元のまとめには、選択式の問題、学習の振り返りができるように、気づきを書き込めるような工夫があるのも、よいと思いました。次に、東京書籍です。A4版と大きな教科書で、情報量がとても豊富です。詳しい解説も付いているので、必要な資料を選ぶことができますが、選ぶことに迷う子にとっては情報量が多いかもしれません。調べ学習がしやすいように、検索のマークが付いていました。他教科のマークが付いており、他の教科とのつながりがあり、とても細かく単元が示してありましたので、同じ出版社のものであれば有効であると思いました。コラムで多くのアスリートが紹介されており、写真もきれいで、パラリンピックのアスリートについて知るきっかけになります。

栢沼教育長…保健については、どの出版者も、全教科の中で1番ページ数が多いです。ページ数が増しているということ、どのように捉えたらよいのかというのが感想です。資料やグラフが充実していますが、保健は授業時数が少ないということ

があり、各社の工夫がされていると感じました。まず、学研教育みらいについては、生活との関連が見られました。家庭で、地域でといったマークの記述があり、家庭や地域で取り組めるような調べ学習に導いている点がよいと思い、また、児童にも分かりやすいと思いました。学校現場では、生活との関連から調べ学習が充実しているというのがポイントになっていると思います。単元の最後に見開きページで、「もっと知りたい」や「調べたい」というものがあります。学習したことを広げたり、深めたりすることができるように、詳しい資料が豊富に掲載されていました。次に、光文書院については、とても重要な運動と健康に関係する内容をコラムや発展的資料の中で多く示しており、充実している教科書でした。吉田委員からもありましたが、養護教諭や栄養教諭、学校医などの方々が登場する場面があります。学校内外の人材の有効活用がされやすくなっているという教科書の特徴が見られました。文教社では、情報が精選されている教科書であると思います。紙面に適度な余白があり、挿絵も大きく見やすいという工夫がありました。先ほども発言がありましたが、大切な文章は、薄い黄色で塗りつぶしてあり、さらにキーワードを太字にして、必要な知識がつかめるよう、文章表記の工夫がある教科書でした。大日本図書では、単元導入時の写真やイラストが学習内容をイメージしやすいものになっているというのがよかったですと思います。次のページには見開きで学習ゲームというものがあり、児童が楽しみながら学習課題を設定できる工夫がされている教科書であると思います。東京書籍については、ステップ1で「気づく、見つける」ということが、奇数の右ページに整理されていて、ステップ2以降の本文を読む前に、まずは自分で考えるという、課題発見の活動に取り組みやすい構成に工夫されていて、児童にとっては使いやすい教科書であるという印象を受けました。

(その他意見等なし)

栢沼教育長…それでは、保健について皆さんからの御意見を伺いましたので、1回目は候補となる教科書をお一人2社選び、挙手をしていただきます。

(1社ずつ、挙手による多数決)

栢沼教育長…保健については、「光文書院」「学研教育みらい」の2社を候補として決定します。

栢沼教育長…次に、英語の協議を行います。英語は、7社が発行しておりますので、本日の協議で候補を2社から3社に絞ります。委員の皆様から御意見を伺います。

萩原委員…よいと思った教科書2社の紹介をします。まずは開隆堂です。ペアで活動するような設定が多く、児童同士で教えあうことができ、主体的に学べる工夫がされていると思います。6年生では、日本を英語で紹介する内容があり、実践で役立つ場面があると思いました。今回、各社が採用していたQRコードについては、動画を見て音声を聞いて発音することを習慣づければ、ネイティブの発音に耳が慣れていくと思います。付録に単語リストがあり、教科書で学んだ単語が並んでいて、チェックができるようになっています。振り返りができ、覚えるときに有効です。次に、東京書籍です。「Picture Dictionary」という別冊があり、辞書があるのは東京書籍だけでした。2年間を通して使えるような辞書に近いもので、中学校で学ぶ段階で辞書を使うと思いますが、辞書の引き方などが学べるよい教材であると感じました。こちらも各ユニットにQRコードが付いており、チャンツや動画など、ネイティブスピーカーの発音が参考になると思います。また、日本語と英語の語順の違いに着目しているところがよいところです。

森本委員…各社、英語に関しては、グローバル社会を生き抜く日本人を育成するための英語教育というものを工夫して作っているように感じました。その中で、3社印象に残りました。まず、東京書籍です。みんなが英語を好きになるということをやキャッチフレーズに、もっと学びたいという気持ちを育て、何ができるようになるのかが分かり、どのように学ぶのかを示すように工夫していました。萩原委員からもありましたが、教科書と別冊があり、教科書本体は、文字の書き込みやすさやカードの貼りこみやすさに配慮して、A4版の大きいサイズになっています。別冊は持ち運びの負担に配慮して、小さなサイズになっており、そういった点もよいと思いました。計200箇所のQRコードを用意して、質の高い音声をいつでも聞けるようになっていました。また、CLIL、内容言語統合型学習という部分を充実させており、他教科で学んだ題材での学習を行うことができるように工夫されていました。世界に日本のよさを発信しようとする子供たちを育てられるように、伝統や文化に関する題材を豊富に取り上げているのが印象に残りました。次に、三省堂です。教えやすく、学びやすい教科書ということを目指しており、ホップ、ステップ、ジャンプと、段階的に学ぶプロセスが見える化して、子供たちが英語を学習できるように工夫されていると思います。ホップ、ステップ、ジャンプ、それからスモールステップがあり、教員も指導しやすい作りになっているのが印象に残りました。ステップでは、パターン化された紙面構成で、どこに何があるか、何の活動なのかが子供たちに分かりやすい紙面構成になっているのが印象的でした。次に、開隆堂です。聞く、読む、話す、書くという、4つの技能を活用するための基礎となる知識、技能をしっかりと修得できるように、繰り返しの学習を充実させていました。1年間の学習が始まる前に、各学年の巻頭に「CAN-DO マップ」というものを作り、学習の見通しを立てられるようにしていました。教科書の後半

に、「文字に慣れよう」というコーナーがあり、5年生では、音と文字を結びつける丁寧な学習、6年生では、読める、書けることで自信や達成感を持たせ、読むこと、書くことを系統的に学習できるように工夫されていました。また、QRコードからアクセスできる豊富な音声や動画、ゲームなどのコンテンツが用意されていたのも印象に残りました。

吉田委員…どれも勉強になりましたが、3社選びました。まず、東京書籍です。「Picture Dictionary」が別冊にあるというのが、とても使いやすいと感じました。CLILも充実していて、英語は使うということが大切になりますので、他の教科とつながりながら学習していくということが大切で、とても充実していると思いました。日本の文化や伝統を豊富に扱っているということを感じました。三省堂では、チャンツやリズムといった、英語を話すということをしっかりと扱っていて、聞き取りやすい音声で示していました。また、小学校の外国語活動を英語によるコミュニケーションということにつなげて、教科学習に展開するという流れは素晴らしいと思いました。英語を言葉として学ぶだけではなく、世界に向けて視野を広げていくというコラムが適切に配置されていました。教育出版では、「My Book を作ろう」ということで、切り離したりしながら、自分の英語の本を作れることで、子供たちにとっては、学びを具体化するのによいのではないかと思います。教育出版のコミュニケーション活動は、設定が多くて、話しをするときに英語を使うということを楽しみながらできる工夫がありました。辞書の使い方についても扱っていて、語彙を増やすためには辞書は必要になりますので、こういった点もよいと思います。全体に子供たちが楽しみながら活動できるような様々な工夫があったと思います。

和田委員…かつて学んできたやり方では、実践的なものは身に付かないという視点に立ってみましたが、教科になって、英語が嫌いという子供が出てくるという不安があります。楽しいと思えるように展開されていくことが重要ではないかと思います。まず、開隆堂では、「Let's Play」や「Let's Listen」が数多く具体的に用意されていて、使いやすい構成になっていました。「Let's Try」の後に、振り返りとして、顔に色づけをするようになっています。顔に色づけして、楽しく成果を確認できるような工夫がされていました。「Let's Sing」や、「Let's Chant」も適度に配置されていて、楽しいと思いました。開隆堂の教科書全体として、身体を動かす、ペアでやってみる、番号を書き込むといった、単純に書いたり聞いたりするだけではなく、身体を使って、動きを伴いながら学ぶ工夫がされているのがよいと思いました。深く学ぶということにつながるプロセスも考慮されていると感じました。次に、三省堂です。他の委員からもありましたが、ホップ、ステップ、ジャンプの3段階の構成で、ホップで学びの見通しを立て、ステップで表現を学んだり、練習したり、コミュニケーションを取り、ジャンプで実際の場面で表現するために、プレゼンテーションをするようになっています。日本人が一番苦手としているのが、プレゼンテ

ーションだと思います。どのように自分の思いを具体的に表現するかということ、子供のうちから訓練しておくことは大事なことであると思います。

「Sound Chant」、「Word Chant」、「Talk to Friends」が授業ごとに繰り返されているのも、学びやすいと思いました。また、話す、読む、書く、聞くということが繰り返されていて、バランスよく学べると思いました。最後に、光村図書です。単元の始めにゴールを提示しています。例えば、ユニット4では、家の手伝いや1日の生活について、尋ねあうことができるということを明記して、ホップで、手伝いや1日の生活についての言い方を知る、ステップ1、ステップ2で展開していき、ジャンプで休日の過ごし方について尋ねあおうというように、学ぶ内容が具体的に示されていて、学習しやすいのではないかと思います。また、絵辞典というものが、豊富に掲載されているのもよいと思いましたが、東京書籍では「picture dictionary」が別冊になっていて、こちらもよいと思いました。また、何度も書いて何度も消せるノートが付いています。こういった工夫が大事なことで、新しいものを作り出していくということは面白いと思いました。

栢沼教育長…読む、書くという学習が加わりましたが、学習の中心になるのは、聞くことと話すことであるのは変わらないという構成であると思います。多くの出版社が、音声に慣れ親しむために、リズムにのって英語を話すといった、チャンツ、歌ゲームを通じて、英語を身につけるという作りになっているというのが全体的な感想です。現場にとっては、初めて担任が授業を請け負う状況が考慮された教科書がよいと思います。また、中には英語が苦手な教員もおり、特に発音が不安ということもあるので、音声を使った教科書が重要であると思います。まず、光村図書ですが、特徴として、各ユニットに、レスポンスコーナーがあり、基本表現に加えて、相槌や、聞き返すという表現にも触れることで、豊かなコミュニケーションが学習の中でできるように配慮されています。啓林館では、復習のページが充実しています。特に教員の指導経験が少ないため、各レッスンの目安時間が入っています。15分ごとの学習内容を示しており、教員の授業の進行をサポートする構成となっているのが特徴的でした。三省堂については、各学年にコラムが2つずつあり、英語を学ぶ意味や面白さへの気づきを促す教科書であると思います。開隆堂については、小学校では文字指導が、重要かつ定着が難しいと言われます。英語表記が、AやGといった、書き文字に統一されていて、分かりやすいと思います。学校図書については、各レッスンのタイトルが疑問文になっているものが多く、5年生では全て疑問文になっています。ここから、実際のやり取りを促すような工夫、相手や場面を意識して英語を使う活動が用意されているのがよいと思います。教育出版については、ペアやグループで取り組むコミュニケーション活動や、協力しながらの活動を多数設置している点と、挿絵の性別、人種に偏りがないように配慮された教科書だと思います。東京書籍では、提示してある英単語を正しく書き写す

ことができるという点から、書くことが苦手な子が安心して取り組めて、習得できるように工夫されていました。コミュニケーション能力の基礎は非常に大切になりますが、確実に身に付くようにするために、児童が友達や先生について知りたくなるような仕掛けがありました。言語材料を使う場面が繰り返し登場するといった工夫がされていて、映像資料でストーリー性を確認できる点もよいと思いました。

(その他意見等なし)

栢沼教育長…それでは、英語について皆さんからの御意見を伺いましたので、1回目は候補となる教科書をお一人3社選び、挙手をしていただきます。

(1社ずつ、挙手による多数決)

栢沼教育長…英語については、「東京書籍」「開隆堂」「三省堂」の3社を候補として決定します。

(異議なし)

栢沼教育長…それでは、本日予定していた教科書採択にかかる協議は終了しますが、本日の協議で候補となった教科書について確認します。

書写…学校図書、教育出版、光村図書

理科…大日本図書、啓林館

保健…光文書院、学研教育みらい

英語…東京書籍、開隆堂、三省堂

以上でよろしいでしょうか。

(異議なし)

6 教育長閉会宣言

令和元年8月27日

教 育 長

署名委員（和田委員）

署名委員（萩原委員）